

# みつくら

令和 5年12月15日 第400号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 文化祭特集号

新型コロナも今年5月から感染症の5類移行となり、大瀬川の行事もコロナ禍前に戻りつつある中、11月11日から二日間開催された大瀬川地区文化祭は多くの参加者で賑わった。「みつくら」12月1日号で、多くの写真が載せられているが、内容を詳しく記すことにした。

### 園児が描いた絵は4点

石鳥谷保育園からは園児4人の絵が展示された。くまがいゆいさん(木ノ宮家)「おまつりたのしかったよ」・すがわらめいさん(野中家)「ししおどり」・すがわらむくさん(野中家)「きもだめしがんばったよ」・はたけやまかえでさん(下西海地家)「おまつりたのしかったよ」が展示されていた。石鳥谷保育園は令和6年4月から石鳥谷善隣館保育園と統合し「いしどりやこども園」へ移行する。

### 小学生の図画は18点

大瀬川在住の石鳥谷小学校児童は18名おり、児童全員の図画が展示された。児童名と題は次のとおり。  
 熊谷陽麻梨さん「モチモチの木」・熊谷光さん「モチモチの木」・熊谷心々さん「うさぎのたまご」・菅原仁さん「私の思い出の風景」・畠山拓磨さん「モチモチの木」・菅原未結さん「ぺんぎんのしまのたまご」・菅原万夢さん「雪だるまのたまご」・菅原新さん「モチモチの木」・熊谷水希さん「ちきゅうのたまご」・福島詩太さん「よるこびのたまご」・熊谷ひなたさん「モチモチの木」・辻村藍さん「くまのたまご」・板垣美月さん「物語の絵・たんぼぼたいへん」・辻村大雅さん「わたしの思い出の風景」・菅原時生さん「ドラゴン・山をとぶ」・板垣龍さん「石鳥谷祭り」・板垣陽翔さん「物語の絵・手袋を買いに」・板垣唯吹さん「石鳥谷祭り」を展示した。

**子供育成会「子供の世界写真展」**

大瀬川地区子供育成会(辻村智会長)も子供や家族から写真18点の展示があった。  
 出展したのは、熊谷音々さん、熊谷陽麻梨さん4点、板垣唯吹さん、辻村藍さん、辻村大雅さん、畠山拓磨さん2点、菅原仁さん、菅原遥さん2点、板垣陽翔(はると)さん、熊谷京子さん2点であった。

### 石中生徒からはポスターを展示

石中生徒からはポスターが展示された。名前は次のとおり。  
 菅原睦さん、菅原颯人さん、畠山ひなたさん、板垣蒼幸さん、高橋咲季さん、菅原氷織さん、畠山真莉華さん、畠山ひよりさん、畠山港人さん、西館椿稀さん、玉山太一さん。  
 園児から小中学校生の作品は誰もが目を細めて眺めていた。次の時代を担うこどもたちの将来が楽しみである。

### 熊谷さんは油絵の大作

熊谷和典さん(橋見家)は幅80cm、高さ120cmの油絵の大作を出展した。題は「伝承」と書いてあった。社会科見学で訪れた小学生に女性職員が説明している様子が描かれていた。そういえば、令和2年にくずまる大学の移動研修で陸前高田市の「津波伝承館」を見学した際、当時勤務していた熊谷さんが案内してくださったのを思い出した。

### 畠山さんは卓上写真4点

畠山莉奈さん(萬藏電家)が出展した卓上写真4点はニッコウキスゲの花など2点と渡り鳥、クジャクサボテンに蛙。ニッコウキスゲの写真は、画面いっぱい花をズームアップし、おしべやめしべの造形が目を惹いた。

### 9区の女性達がポーセラーツを出展

会場で「ポーセラーツとは何?」と聞いてみると「真っ白な磁器に、好きな色や模様の転写紙を貼って絵付けするものです」とのこと。転写紙を貼った磁器を約800℃の窯で焼き上げると絵付けが出来るという。皿や茶碗、マグカップなど30点が展示されていたが、作ったのは9区の女性達。作品を窯で焼き上げる仕上げは講師が行ったものだが、どれもが市販品かと思われるほどの出来映えであった。

### 藍染めや編み物など50点

8区の女性部が作った藍染めの作品は、スカートが10点、他にもクッションや手提げ、ナプキン2枚、合わせて14点。  
 作ったのは熊谷浪子さん、畠山三枝子さん、板垣江利子さん、菅原房子さん、板垣福子さん、板垣淑子さん、玉山静江さん、熊谷千代子さん、板垣眞喜子さん。  
 藍染めは日本の伝統的な染め物で、なんとと言っても青色の深みとやわらかさが魅力という。かつて菅原千恵子さんが滝浦染物店からの依頼で藍栽培をしていたことを思い出した。  
 編み物のドレスは見応えがあった。他にセーターやカーディ

ガン、手提げバック、壁掛けなど46点の展示であった。

### 板垣さんはつまみ細工を出展

板垣久美さんは、つまみ細工21点を二つの箱に収めて出展した。作品は薔薇の花などのブローチが21点。近寄ってよく見ると、どの花びらも小さな布を一枚一枚丁寧に色とりどり貼り合わせていて根気のいる作品だと知った。

### 手芸クラブからは83点の展示

大瀬川手芸クラブからは多くのパッチワークが展示され、その数は実に83点に及んだ。干支や花、壁飾りなどで会場を華やかにしていた。大瀬川手芸クラブの発足は、石鳥谷町が花巻市と合併した平成18年の大瀬川文化祭に作品の出品を目指して、平成18年7月15日に発足し、月に一回の例会で作品作りを続けている。

### 展示室入り口に48匹の干支がお迎え

参観者が展示室に入ると直ぐに迎えてくれたのは、48匹の干支による「干支パーティー」。パーティーとは良く名付けたもので、十二支の動物たちがこちらを向いて集っていた。活性化会議が毎年干支作り講座を開催し12年分を出展したものの。制作の様子を撮影した写真も添えてあった。

### 熊谷さんは毛筆を出展

熊谷美奈子さんからは、毛筆を出展していただいた。せっかく出展いただいたのに、取材をこぼしてしまい申し訳ない。ごめん。

### ロビーではお茶のおもてなし

振興センター入って直ぐのロビーでは、文化祭の来場者がお茶会で楽しんでた。携わったのは、高橋宗綾さん、菅原房子さん、板垣福子さん、熊谷り子さん、高橋厚子さん、菅原文子さん、菅原和子さんの7名。茶会スペース奥には「時雨洗紅茶」の掛け軸が架けられ「しぐれ もみじをあらう」と詠み、「紅葉が秋風に洗われ、美しく光輝いている」と高橋宗綾さんから意味を教えていただいた。掛け軸の前には香合と、花はブルーベリーの紅葉に椿が添えられていた。心地よいお茶の苦みとお菓子の甘さに、ほっこりとしたひとときを味わうことができた。  
 茶会でいただいたお茶は小山園の「四方の薫」で、お菓子の銘は「錦秋」とのこと。70名分を準備したそうだが、お昼頃には無くなり好評のうちに終了した。

**《ちょっとお知らせ》 ~オレカフェプレゼンツ~**  
**年明け1月6日午後1時30分から「親子で楽しめるボードゲームカフェ」を構造改善センターで行います。オセロ、人生ゲーム、トランプなど。ピンゴもあるよ!ぜひ遊びに来てください。お手伝いしてくれる方も大歓迎です!**

### 「ブルリの杜」からも多くの出展

毎年協力をいただいている「ブルリの杜」から、今年も多く出展していただいた。熊谷有真さんは「猫」8点の絵画、高橋慶士さんは絵画の「写仏」と壁飾り2点とペン字1点の合わせて12点。職員一同の「タペストリー」が飾られていた。タペストリーとは、壁に吊り下げて使用する織物とのことで、厳密にはつづれ織りで作られた織物のことを指すそうだ。元々は麻や木綿、ウール、絹などの糸で織りこまれたもので、現在では化学繊維の布やビニール、合成紙などが主流で壁掛けなどに使われる室内装飾用の織物の一種とのこと。芸術班からは「ドラゴンブルー」と「無題」の2点、須藤貴志さんからは織物の「大阪モノレール」と「無題」の2点、池野祐紀さんは「夏そして秋」と和紙にオニヤンマの貼り絵の2点、小岩孝史さんは「無題1」「無題2」の2点、松田快さんはペン字「写経」などが展示された。

### 「千鳥苑」からも多くの出展

千鳥苑の皆さんにも展示の準備から撤去までご協力をいただいた。

出展された作品は職員一同の「つるし雛」4点、高橋敦子さんは「膝かけ」の手芸品と敷物5点、塗り絵は匿名で「古民家」、また、小原俊美さん、鎌田キヨさん、中村キワさん、多田カネさんの作品が展示された。貼り絵では、入所者一同で制作した「あじさい」など2点と小原俊美さん、山本かつ子さん、西田定さん、工藤トミ子さん、鎌田キヨさん、阿蘇あき子さん、押切丑太郎さん、中村キワさん、佐藤きよ子さんの名があった。

趣味が多彩だと思ったのは八重樫守さんと八重樫典子さんのご夫婦で、守さんが壁掛け3点を出展し、典子さんは短冊3点の中に書かれた短歌「大瀬川 ひとに思えり川の名を吾住める地の名とも知らずに」と詠んでいる。大瀬川という川があると思ったのでしょうか。他にも典子さんは「壁掛け」3点、絵手紙3点、パッチワーク、布絵など多彩な作品の出展をいただいた。

### 写真クラブも展示

大瀬川写真クラブ（菅原昇事務局）の方々を中心に、今年の文化祭には14人から34点の写真が展示された。

板垣弘清さんは屋根の雪下ろしを撮った「古民家を守る」と冬の足ヶ瀬ダムを撮った「氷上のワルツ」、自宅の干し柿をつるしてる姿を写した「里の秋」の3点。熊谷レイ子さんは「夕日1」と「夕日2」の2点、板垣幸寿さんは「段々の滝」「水芭蕉」「住田の紅葉」の3点、熊谷瞳さんは「だーい好き」と「無題1」「無題2」の3点、菅原得之さんは「谷地さんの麦畑」、菅原昇さんは「コンサートにて」「朝焼け」「紅葉」「ダケカンパ群」の4点、板垣公さん「初秋のトゲシ森」「故郷の夜明け」「豪雪の恵み」の3点、熊谷敏江さんは「天空を渡る」「雨柱」「お花をどうぞ」の3点、菅原正勝さんは「思い出1」「思い出2」の2点。

板垣皆美さんは「太鼓の音に耳を澄ませ」「また会えたね」「車の下からこんにちは」「猫はやっぱり段ボール」の4点、菅原新一郎さんは「スペイン広場」「ジェラードを食べた場所」「サグラダファミリア」「たんぼアート」の4点、菅原房子さんは「虹」、辻村睦さんは「コキア」の作品であった。

大瀬川写真クラブでは、板垣弘清さんを招いて、11月11日午前に会員が出展した作品の「写真批評会」を行った。写真には芸術写真や報道写真などがあるが、芸術写真を撮る場合には、なるべく「日の丸弁当」は避けるようにと教わった。日の丸弁当と言っても、今の若い方は知らないと思われるが、戦中戦後の食べ物が乏しかったころ、弁当にご飯を盛って、その真ん中に真っ赤な梅干し1ヶを入れた状態を指す。シャッターの焦点を真ん中から少しずらすと芸術的な撮り方になるという。参加者は8名であった。写真は、記憶にとどめておけない何気ない日常の一コマの時間を切り取ったものでも、改めて何度でも振り返って見ることができるから面白いのかもしれない。だからアルバムの整理などしようと試みても、こんなこともあった・・・と手が進まなくなる。

### ポッチャ大会で親睦を深める

文化祭の一環として、新しい軽スポーツであるポッチャ大会（参加者35名）で交流を深めた。パラリンピックでも知られるポッチャは、ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当たったりして、いかに近づけるかを競うもの。11月11日に大瀬川構造改善センターで、子供会と老人クラブが混じって競技し、指導は板垣幸夫さんで、子供たちも初めてとあって一投毎に歓声をあげていた。

### 焼き芋体験をした子供達

11月11日に老人クラブ、子供育成会の親子と一緒にIM0らぼで収穫したサツマイモで焼き芋体験会をした。

子供たちはお年寄りにやり方を教わりながら、サツマイモをぬれたキッチンペーパーや新聞紙で包み、更にアルミホイルでくるんでドラム缶で作った「靱殻窯」に運んだ。運動公園の銀杏のそばで、いい香りを漂わせ焼き上がった焼き芋は、子供たちのほかに文化祭に参加した方々にも振る舞われた。ホックホックの甘い味は、いつまでも思い出となるだろう。

### 文化祭に舞台部門

ステージ発表の前に「大瀬川文化祭開会式」が行われ、熊谷秀夫大瀬川活性化会議会長は「コロナ禍のために、あらゆる行事が中止や縮小してきましたが、今年の文化祭はコロナ禍前の水準にもどして行いました。展示部門では、住民の方々から多くの作品を出していただきありがとうございます。また、舞台部門は町内で大瀬川だけでするので大いに楽しんで下さい」と挨拶した。

舞台部門の最初は、大瀬川民話クラブの紙芝居「狐の仕返し」を披露した。菅原敬子さんの語りで、めくりは菅原千恵子

さんと高橋厚子さんが担当した。続いて「エコーくずまる」の合唱で、白藤淳一さんのピアノ、会員の菅原祐子さん、板垣福子さん、畠山庄子さん、板垣征子さん、菅原美津子さん、菅原智子さん、菅原佳子さん、板垣禮子さんの8人が舞台上に立った。曲は「里の秋」「サザンカの宿」「心の中にきらめいて」「いのちの歌」の4曲が会場に響いた。

合唱に続いて熊谷秀夫さんと熊谷満子さんの二人で「これから音頭」の踊りが披露された。お二人が軽く手をつないで踊る場面は実に仲睦まじい光景だった。

### 文化祭に合わせて町神楽大会

今年の石鳥谷町神楽大会は大瀬川の当番であった。町神楽大会は各団体が持ち回りで開催してきたが、活動する団体が減り続け、神楽団体単独での開催が厳しくなったことから、団体は地域のイベントと共催する形で行うことを大瀬川文化祭実行委員会と協議し、文化祭初日の11月11日午後の舞台部門に続いて開催された。

開催に先立ち1時間前に大瀬川構造改善センターで石鳥谷町神楽協会の役員改選が行われ、新会長に小原和夫さんが選ばれた。したがって、当日の神楽大会の挨拶は伊東博文前会長からで「コロナのために、令和元年度から4年度まで神楽大会を休んでいましたが、この度、5年振りの開催となりました。貴重な郷土芸能を残すために努力していますので楽しんで頂ければと思います」と挨拶された。

始めに大瀬川神楽の「鳥舞い」が披露された。笛は畠山絹雄さん、太鼓は熊谷美奈子さん、鉦は熊谷茂さん、鳥舞いは藤原美輝さんと熊谷和典さんが舞った。大瀬川神楽の次には、千刈田神楽の「普将」で両手に剣を持って舞う神楽であった。3番目の神楽は五大堂神楽で「注連切」を演じた。鬼が両手に扇子を持って舞う神楽であった。4つ目の神楽は、千刈田神楽の「鞍馬」。烏帽子姿の縁者が一人で舞った後に、天狗の面をつけた舞い手が六尺棒を持って一人で舞い、その後には烏帽子の舞い手と天狗の舞い手が二人で舞うもので迫力満点で大盛況となった。

神楽大会の観客は80名を数え、小原和夫町神楽協会新会長からの締め挨拶では「多くの方々の前で演舞できました。ありがとうございます」と感謝の言葉を述べた。

### 文化祭の「餅まき」は大賑わい

盛りだくさんの行事が行われた文化祭初日、最後を飾ったのは「餅まき」であった。

大瀬川の方々には83名、それに神楽大会の関係者も加わったので90名ぐらいは参加したと思われる。餅を撒いたのは、熊谷秀夫さん、高橋厚子さん、菅原教雄さん、熊谷恭一さん、熊谷茂さん、板垣公さんの6人で650ヶの餅を撒いた。筆者も6ヶ拾い早速納豆餅で味わった。コロナで多くのことができなくなった数年を過ごし、改めて「賑わい」や「ひととのふれあい」が懐かしいと感じた。取り戻したい日常の一コマであった。